

うじねーの会

野外研修 琉球ガラス制作見学

琉球ガラスは世界に通用する沖縄の芸術品である。旅行者がお土産として持ち帰った物が、世界の家庭で並べられているようである。

琉球ガラスは戦後、アメリカ人の要望で制作されていたこともあり、西洋の人々に受け入れられる素地がある。



二千元でマイカップ制作ができるため、観光客らしき人々が制作に夢中になっていた。形も素晴らしい透明なガラスが放つ色の鮮やかさに別世界へ誘われる。

帰りに豊崎ビーチに立

ち寄った。見渡す限りのエメラルドグリーンの海に癒された。誰しも身体をほぐしながら深呼吸を繰り返していた。

今回はとくに、輝く色採りが目と心に染み入る研修会となった。

ウグワンブトウチ

「御願解ち」と「師走拝み」(旧12月24日)、 「ハチウビー」(旧1月2日)

シワーシウガミ

ウグワンブトウチとシワーシウガミ(旧12月24日)は各拝所と門中に



1年間の報告と感謝を伝える拝み(ウガミ)である。

ハチウビー(旧1月2日)は地域の井戸に対し、今年も井戸水の恩恵にあずかる事への拝みである。他の地域では今も生活用水として利用している所

があるが、国場地域は先の大戦のために史跡の殆どが残っていない。

水は生きるために必要不可欠で古井戸は昔の生活の原点である。いろいろな口マンを連想しながら廻る拝みである。



JA国場支店でのJA祭りの取り止め!



JA国場支店の軒スラブが剥離して落下する建物老朽化に伴い、JA祭りの開催が取り止めとなった。この建物は昭和47年に建築され、築年45年を経過している。

新築当時は当自治会会員始め近隣の家庭のほとんどが農業従事者であった。営

農指導、肥料、農機具、保険、融資など地域住民に密着した業務を行うことで、農業の拠点としてなくてはならないものであった。社会の移り変わりの中、会員の大半がアパート建築の際、JAから建築資金の融資を受けた。今日でも福祉、葬儀、共済など幅広く地域の生活に密着した拠点として活動しており、組合員にはなくてはならない組織である。

建替えの申し出は2年前からあった。元々、

当自治会の元会長で前真和志農協組合長の渡慶次弘氏がJA国場支店の建替えの際には、当自治会が建築しJAに借りてもらうように強く要望していた経緯があり、早急に進めてほしいと要望があった。現在、複合ビルを建築する予定で建築準備委員会を立ち上げ、計画を進めている。



人にも建物にも寿命がある

JA国場支店の建物が築45年で老朽化し、建替えなければならない。人にも寿命があるように建物にも寿命があることを知ることができる。

国場自治会館も築21年になった。24年後には建替えが必要になるだろう。

この規模だと必要な建築費は4億円で、耐用年数が50年としても年間800万円を積み立てなければならない。だが、現在そのような積み立てはされていない。

新築費は特別会計からの取り崩しとなるため、その後の自治会運営にも支障を

きたすことになる。私達は数百年前の祖先たちが残した財産を守る

ため、英知を結集して自治会運営に当たらなければならない。

